

【質問】 ウイルス性肝炎の話聞き、自分が肝炎ウイルスに感染していないかと心配になりました。肝炎ウイルスの無料検診があるようですが、どこで受けられますか。
(25歳・会社員男性)

肝炎ウイルス検診

【回答】 肝炎ウイルス検診は県内の医療機関や保健所で受けることができます。費用は無料です。この

検診により、B型やC型肝炎ウイルスのチェックができます。ただし対象は20歳以上の人で、まだ一度も肝炎検査を受けたことのない人に限られています。

B型肝炎とC型肝炎は、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスが感染して引き



肝がんによる死者数は1970年代に比べると約3倍に増えて3万人を超え、

登場により格段に治療成績が向上しました。

C型肝炎に対してはインターフェロンに代わり、ペグインターフェロン(注射薬)が開発され、リビリン(経口薬)と併用することにより、飛躍的に治療成績が良くなっています。

医療機関など初回無料

起こされる病気です。特にC型肝炎は大部分が進行性で、慢性肝炎から肝硬変へと進み、10年から30年経過すると、肝がんがでやすくなります。

よく知られたことですが、日本人の死亡原因の第1位はがんです。その中でも

がん死亡の第4位を占めています。肝がんの約80%はC型慢性肝炎が原因であることが分かっており、肝炎対策が重要になります。

B型肝炎の治療にはインターフェロン(注射薬)が使われていましたが、核酸アナログ製剤(経口薬)の

現在、国内のB型、C型肝炎ウイルスの感染者は300万人を超え、国内最大の感染症といわれています。しかしインターフェロンの治療費は高額のため、治療を受ける患者数がなかなか増えませんでした。

国はウイルス性肝炎を撲滅するため、インターフェロン治療の助成を始めました。さらに、2010年から新しい助成制度を導入しました。

助成拡大で自己負担減

減するため、インターフェロン治療の助成を始めました。さらに、2010年から新しい助成制度を導入しました。

変更点は次の三つです。
①自己負担額が引き下げられ、月額1万円(上位所得階層2万円)になった。

②インターフェロン再治療も助成の対象になる。
③B型肝炎に対する核酸アナログ製剤が助成対象に追加された。

また肝炎ウイルスの検診を受けたことのない人は、ぜひ受けるようお勧めします。ウイルス反応が陽性だった人はかかりつけ医と相談し、肝臓専門医に治療が必要かどうかの判断を仰いでください。(県医師会)